

市史編纂だより

第 8 号

摂津市教育総務部生涯学習課市史編さん係

令和 7 年 12 月発行

〒566-0023 摂津市正雀 4 丁目 9-25 摂津市民図書館内 TEL 06-6319-0587

南北朝内乱と摂津

◆南北朝内乱の展開

1330 年代から約 60 年間にわたり、日本各地では大規模な戦闘が繰り返し行われました。いわゆる「南北朝の内乱」です。すでに刊行済の『新修摂津市史 第一巻 自然地理 先史・古代 中世』の中世編第 3 章第 1 節では、南北両朝や足利氏をはじめとする室町幕府の動向を中心にこの内乱の展開が説明されていますが、摂津市及び周辺地域も大きな影響を受けました。今回は南北朝内乱時における摂津市および周辺地域の様相についてご紹介します。

◆内乱期の武力

建武元年（1334）8 月、近衛家領の萱野・沢良木・藤井・岸辺・粟生等に居住している勝尾寺僧らが、沙汰人掃部助義持などの萱野荘荘官らと共同して叡山浄土寺門跡領の田畠に乱入し、その土地を不当に占拠しようとしているとして浄土寺僧行心に訴えられました（勝尾寺文書）。この事例では寺僧らの乱暴行為も問題視されており、彼らは僧侶でありながら武力を行使する存在でもあったことがわかります。さらに、建武 5 年（1338）には足利方の仁木義有とみられる人物が勝尾寺に対して軍勢を催促しており（勝尾寺文書）、僧侶らは内乱期の軍隊を構成する一員となっています。また、沙汰人・荘官と呼ばれる地域の人々も内乱に参加していました。

元弘 3 年（1333）と推定される後醍醐天皇が発給した文書には、「榎坂郷四ヶ村の軍勢並びに甲乙人等、先度成し下さるの綸旨に任せて急ぎ馳せ参じ、兵部卿家の手に属し軍忠を致すべし」とあり、後醍醐が榎坂郷の人々を軍事動員しようとしています（今西春定氏文書）。榎坂郷は春日社領摂津国垂水



図 1 湊川合戦跡地の湊川神社（2021 年撮影）

西牧の内に含まれますが、鎌倉後期以来垂水西牧では沙汰人六郎左衛門尉なる人物が狼藉行為をはたっていますし（『中臣祐賢記』）、榎坂では住民助村が城郭を構えて春日神人を刀傷殺害しています（『中臣祐春記』）。後醍醐はこうした沙汰人・住民らの武力を軍勢力として期待したのでしょう。

一方で建武 3 年（1336）7 月には、朝倉孫太郎

くさかべしげかた

日下部重方が「御手に属し、去ぬる五月廿八日の兵庫湊川御合戦、京都度々御合戦の時、軍忠を抽ず」と、湊川合戦（図 1）などにおける自身の軍事的功績がいかに優れているかを、足利方の高師泰に対して報告しています（東寺百合文書／図 2）。重方は東寺領摂津国垂水荘の荘官である下司・公文を務めた人物であり、荘官らが積極的に内乱に参加し軍功をあげていたことがわかるのです。

また、同じ垂水地域の人々が、後醍醐・南朝方や足利・北朝方などの諸勢力に分かれて内乱に参加していることも注目できます。その背景には、地域の権益をめぐる対立・衝突が生じていたことがあったと想定され、こうした地域の対立関係が朝廷や幕府の政治的動向と連動した結果、内乱が長期的に展開したと考えられます。「南北朝の内乱」といえば、どうしても後醍醐や足利尊氏・義満などの著名な人物の動向に目が向きがちですが、地域の僧侶や沙汰人・荘官、住民に至るさまざまな人物の積極的な内乱への参加も看過できない大事な歴史事象なのです。摂津市およびその周辺は、こうした内乱期の地域の様相がよくみえる極めて重要な場所といえるでしょう。

◆摂津市近隣における合戦

応安年間（1368～75）に成立したと考えられている軍記物語『太平記』には、摂津国内での合戦の様子が頻繁に描かれています。たとえば、延文 3 年（1358）に足利尊氏から將軍の地位を継いだ足利義詮が、翌延文 4 年（1359）に代始のデモンストレーションとして大々的に南朝攻略を試みた際には、渡辺・尼崎などに総勢 7 万騎もの軍勢が集まったと記されています（巻第 34「新將軍南方進發事付軍勢狼藉事」／図 3）。軍記物語という性質上その数を鵜呑みにすることはできませんが、延文 5 年



図 3 内閣文庫蔵『太平記』巻 34「新將軍南方進發事付軍勢狼藉事」（国立公文書館デジタルアーカイブ）

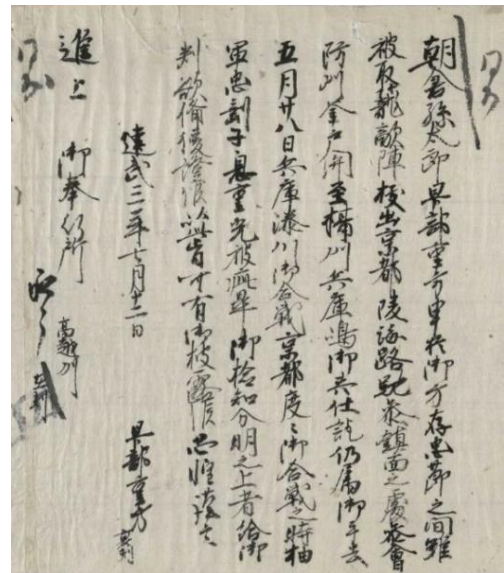


図 2 建武 3 年 7 月 12 日「日下部重方軍忠状案」（京都府立京都学・歴史館 東寺百合文書 WEB）

(1360) には芥河岡三郎左衛門尉平基茂なる人物が、延文 4 年 12 月 26 日の渡辺合戦以来、穂積弥太郎左衛門尉宿六郎らと共にいくつもの軍功をあげてきたと述べており（『甲子夜話続篇』）、摂津市近隣地域の地名を冠する武士らが活躍していたことは事実のようです。では、摂津市および周辺地域では、具体的にどのような合戦が発生していたのでしょうか。

1350～60 年代にかけて、南朝が実に 4 度にわたって京を制圧するのですが、その 2 回目の際の合戦に注目してみましょう。北朝の重鎮であつた洞院公賢の日記『園太暦』

では、文和 2 年（1353）3 月 24 日条に「昨日吉良・石塔以下神崎官方の軍旅、土岐の軍陣に襲来するの間、吹田辺りにおいて合戦す。土岐方 略を以て、数十人を討ち取り、或いは首を取り、或い

は四十人許りを生虜ると云々」とあります。南朝軍の吉良満貞・石塔頼房が北朝軍の土岐頼康を襲撃した際に吹田付近で合戦となったのですが、先述した南北朝内乱期の軍勢の構成員を考慮すると、ここで打ち取られたり生け捕られたりした人々の中には、近隣地域を出自とする人物もいた可能性があります。地域を巻き込みながら展開する内乱の様子がうかがえるでしょう。

このように、「南北朝の内乱」は地域の人々を広範に巻き込みながら展開したものでした。内乱・合戦時の地域の人々に思いを寄せながら関連地域を訪ねてみると、教科書などで習った歴史とは異なる側面が見えてくるかもしれません。

(相愛大学人文学部准教授 永野弘明)

『新修摂津市史』第二巻・第三巻 既刊のお知らせ

◆『新修摂津市史』第二巻 近世・近代編 A5版 本編 883頁

目次

《近世編》豊臣政権期から幕末期まで

第一章 近世的秩序の形成

- 第一節 本能寺の変後の摂津市域と織田長益
- 第二節 近世初期の摂津市域と織田長益
- 第三節 十七世紀の所領構成と諸領主
- 第四節 近世的治水体制の成立
- 第五節 近世的水利秩序の成立
- 第六節 村と地域社会
- 第七節 幕府広域支配
- 第八節 諸領主の支配

第二章 地域社会の発展

- 第一節 所領構成の変化
- 第二節 開発の進展と治水制度の変化
- 第三節 水利秩序の変化
- 第四節 産業の発展
- 第五節 交通の発展
- 第六節 地域社会の変化
- 第七節 領主支配の変化
- 第八節 幕末・維新期の世情

第三章 地域社会の諸相

- 第一節 家族と人の移動
- 第二節 信仰と生活
- 第三節 さまざまな事件
- 第四節 暮らしの中の情報
- 第五節 病氣と災害
- 第六節 娯楽と文化
- 第七節 摂河歴代組と摂津市域

《近代編》明治維新时期から昭和二十年の終戦まで

第一章 維新の変革

- 第一節 藩から府へ
- 第二節 新政の実施と地域社会
- 第三節 治水と水利
- 第四節 文明開化

第二章 日清・日露戦争期の摂津市域

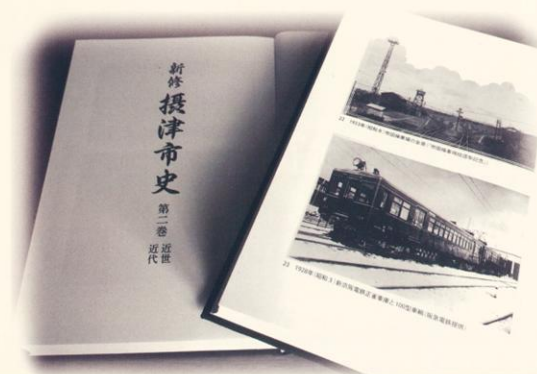
- 第一節 新町村の成立
- 第二節 日清・日露戦争前後の地域社会
- 第三節 交通体系の整備
- 第四節 明治期の産業経済
- 第五節 淀川・安威川の改修
- 第六節 世紀転換期の文化と教育

第三章 デモクラシーと恐慌の時代

- 第一節 大正デモクラシーの時代
- 第二節 昭和恐慌前後の政治・行政
- 第三節 大正期の産業と交通
- 第四節 昭和恐慌前後の産業と交通
- 第五節 変容する社会と教育

第四章 総力戦と総動員

- 第一節 戦時体制移行期の地域社会
- 第二節 工場進出ブーム
- 第三節 アジア太平洋戦争下の地域社会
- 第四節 戦時体制下の教育



目次

〔現代編〕戦後復興期から現在まで

第一章 戦後復興期の摂津市域

- 第一節 戦後地方自治の開始
- 第二節 産業と交通の復興
- 第三節 住民生活と地域の復興
- 第四節 三島町の誕生
- 第五節 戦後新教育の始動と展開

第二章 高度成長と地域の変貌

- 第一節 摂津市の誕生と市政の展開
- 第二節 高度成長期の地域経済
- 第三節 都市整備の進展と市民生活
- 第四節 都市化のなかの教育

第三章 安定成長期の摂津市の歩み

- 第一節 高度成長の終えんと市政の展開
- 第二節 安定成長期の地域経済と交通
- 第三節 豊かさの「質」の追求
- 第四節 拡張する教育事業

第四章 平成期の摂津市

- 第一節 平成期の市政と行政課題
- 第二節 平成期の地域経済と交通
- 第三節 住みよく優しいまちをめざして
- 第四節 少子化と多様性の時代の教育

終章 摂津市の現在と未来

〔民俗編〕昭和から令和へ、くらしの移り変わり

序章 摂津市の民俗

第一章 ムラの組織と運営

- 第一節 ムラの組織
- 第二節 ムラの運営
- 第三節 年齢組織
- 第四節 家と親族

第二章 年中行事

- 第一節 伝統的な年中行事
- 第二節 小学校へのアンケート調査にみる年中行事

第三章 人の一生

- 第一節 産育にまつわる変化
- 第二節 婚姻の変化
- 第三節 葬儀の変化
- 第四節 墓の民俗

第四章 衣・食・住

- 第一節 衣生活
- 第二節 食生活
- 第三節 住まい

第五章 生業

- 第一節 稲作
- 第二節 裏作
- 第三節 特産野菜
- 第四節 農家と家畜
- 第五節 高度成長期の農業
- 第六節 低湿地の作物
- 第七節 水辺の漁撈と水鳥猟
- 第八節 副業

第六章 水とくらし

- 第一節 用水と排水
- 第二節 井路の民俗
- 第三節 淀川とくらし
- 第四節 水害の民俗

第七章 交通・交易・交流

- 第一節 川の道
- 第二節 街道とにぎわい
- 第三節 淀川を介した交流
- 第四節 ムラとマチの交流
- 第五節 訪れる人々

第八章 神社の祭礼

- 第一節 市域の祭礼
- 第二節 須佐之男命神社の祭礼
- 第三節 井於神社の祭礼
- 第四節 味舌天満宮の祭礼
- 第五節 藤森神社の祭礼
- 第六節 味生地域の神社祭礼

第九章 信仰

- 第一節 ムラの神仏
- 第二節 講
- 第三節 浄土真宗の民俗

第十章 商店街の民俗

- 第一節 商店街の誕生
- 第二節 商店街のにぎわい
- 第三節 商店街の変化

終章 新型コロナウイルス感染症による民俗の変化

◆歴史・民俗資料調査にご協力を◆

摂津市では、引き続き市域の歴史・民俗に関わる資料の調査・収集・記録を行い、その成果を順次市民の皆さまに紹介する活動に取り組んでいます。

もしご自宅に古い(江戸時代、明治・大正・昭和時代) ①文書、②本・帳面・帳簿等の冊子、③写真・絵画、④広報紙・地方新聞、⑤民具・祭礼道具などの民俗資料をお持ちでしたら、どうか捨ててしまわずに、市史編さん係までご一報下さい。

各巻 定価 5,000 円(税込) 発行:摂津市

【販売場所・お問合せ先】

摂津市民図書館内 生涯学習課市史編さん係
開室：平日の火～金曜日 9時～17時
[TEL&FAX] 06-6319-0587

* 摂津市役所 6 階生涯学習課でも販売しております。

